

第21回八王子市まちづくり審議会

－会議録要旨－

平成30年3月28日

小津町古民家「おもむろ」

八王子市小津町865

八王子市まちづくり審議会事務局

会 議 名	第21回八王子市まちづくり審議会
開催日時	平成30年3月28日（水曜日）午後2時10分～午後3時30分
開催場所	小津町古民家「おもむろ」八王子市小津町865
出席委員	野澤 康 委員 堀内 進一 委員 山本 薫子 委員 司波 寛 委員 山崎 勲介 委員 中村 文子 委員 福田 邦人 委員 三宅 耕一郎 委員
欠席委員	中西 正彦 委員 山本 通陽 委員
市出席職員	土地利用計画課 山田
その他	NPO法人「小津倶楽部」代表理事 前原
事務局	まちなみ景観課長 伊藤 まちなみ景観課主事 坂井 まちなみ景観課主査 上原 まちなみ景観課主事 赤羽
議 題	1 開会 2 議事等（報告） （1）地区まちづくりフォーラムの報告について （2）中町地区まちづくり協議会の活動状況について （3）まちづくり準備会候補地区について 3 閉会

公開・非公開の別	公開
傍 聴 人	なし
配付資料	〔事前郵送〕 ・ 次第 ・ 資料1 フォーラムの報告 ・ 参考資料 中町新聞 ・ 資料2 意見シート ・ 八王子景観100選リーフレット 〔机上配付〕 ・ フォーラム関連資料（講師2名の当日の資料） ・ 小津町における魅力再生まちづくり（パワーポイント資料） ・ 参考資料 東京都 都市づくりのグランドデザインパンフレット

[午後2時10分開会]

会)：会長発言

委)：委員発言

事)：事務局発言

前)：NPO法人「小津倶楽部」代表理事 前原氏発言

・地区まちづくりフォーラムの報告について

事) 3月17日の土曜日の午後開催。条例の周知と活用促進を目的としているが、今回は、中町地区まちづくり協議会の存在の周知と、協議会のモチベーションアップにつなげることを追加目的として、中町地区を舞台に、みどりの活かし方や課題、これからのまちづくりのヒントを見つけるために実施。当日は16名が参加。まちづくりアドバイザーの宇野氏と保氏より、みどりを活用したまちづくりの提案後、中町三区内のまち歩きを実施。その後、グループワークとして、誰のためのまちづくりの提案を、3グループに分かれて意見交換を行い、発表を行った。

委) 中町は、八王子の中でも大事なところで、これから日本全体の人口が減り、まち全体も、縮小しなくてはならない時代にもかかわらず、ど真ん中の大事なところに空き地があって、見た目が何かこう寂しいというのは、大問題だと思っている。ああいうところこそ上手に活かしていくのが、これからの都市政策の大きな課題だと思う。

委) 以前、この審議会で案内してもらったので、同じ区画を何度も歩いたという感じは持ったが、フォーラムでは、町会長がガイドしてくださり、詳しいお話を聞けてよかった。

やはり、地区としてのまとまりには少し欠けるかと思う。広い駐車場があるのは、外来の人に対して半端な面があるという気がする。もう既に駐車場は借上げが決まって、新しいものをつくるという構想があるそうで、ぜひその辺について意見を聞きたかったという町会長の発言があった。ただ、話し合いでは、そこまでいかず、グループワークのところに意見がたくさん張っているが、3グループに分かれて意見発表があったときに、グループが分かされると、同じものを見ても、こんなにバリエーションがあるのだと感じた。

関連して、駐車場がなくなると、アクセスの都合は悪いかもしれないが、先進国の例などを見ると、観光地や都心に入るのに、パーキングを別にやっているところがある。鎌倉あたりがそういう試みをしていると聞いたことがあるが、中町の駐車場を取っ払うのであれば、利用者にとっても歩きやすい工夫をするといいかもしれない。

会) パークアンドライドをやろうとするには、中心市街地全体で考えないといけない話になると思う。

委) 前にも言いました電柱の地中化なども、やればやるほど大変だと思う。

会) 鎌倉も、うまくは行っていない。やはりマイカーのほうが便利なので、強ちに規制する手段を持たないと難しい。

委) 行政が車を上手にコントロールできる手法を持っていない。ドイツのフライブルクは、人口20数万人だが、あそこは都心に全く車を入れない。周りに駐車場をつくっているのも全部市営で、料金を高くしてある。そのかわり路面電車が真ん中まで通っていて、都市の真ん中に住んでいる人は、自分の駐車場も持つことができないので、車を持ちたいなら郊外に借りておいて、家から10分か15分歩いて行って、それでどこかへ出かける。だから車というと緊急自動車と若干、行政、例えば市長が一応入れるかというぐらいである。

委) 障害者のかたとかはどうか。

委) 時間を区切って、貨物自動車は入れるが、時間限定などの制約はある。緊急自動車は入れるし、ホテルが呼んだタクシーも入れるとか、幾つか例外はあるが、基本的にみんなが歩くまちにしている。そういうまちづくりをしたらいいと思うが、日本は制度的に整っていない。

八王子には「ユーロード」があって、あれだけの歩行者空間をそれなりに活用したらどうか。

委) イギリスでも同じように見てきたが、市の周辺に車を置いて、そこから別の方法で入らなくてはいけないというのは、億劫な人はいるだろうと思う。

会) 中長期的にそういうことが考えられるとも思うが、八王子の駅の周辺は、わりとコンパクトにできているので、できないことはない構造だとは思う。

委) 多分、上手にやれば、市民も納得すると思うが、それを動かすだけの制度とお金がない。

委) でも現実問題として、ああいう駐車場があるというのは、ユーザーにとってもよくないと思う。

委) アメリカのポートランドは、都心に車を入れなくしている。中央にあった市営の1,000何台か駐車できる駐車場も廃止にして公園にした。八王子にたとえば、駅の地下駐車場を廃止して、もっと楽しい空間にしてみようとか、そういうことができれば、なかなか難しい。

前) 直接の内容ではないかもしれないが、このフォーラムの参加者というのが16名ということで、こんなものなのか。それとも、外部の人が見ると魅力あるところだ、あるいは、空き地が多くて心配だ、ということがあるのだが、関心がないから、こういうフォーラムをしても、こんな人数というふうに捉えるのか。

事) 大体毎年、クリエイトホールを借りて、30～40人ぐらいを募集しているが、今回、中町でまち歩きをしたいということで、それを少数の職員で対応することもあったので、20人という定員にしたという経緯がある。

ただ、いただいた意見もそのとおりで、3月15日に観光コンベンション協会が中町の花街ツアーを企画したときは、30分ですぐ定員が埋まったというのを考えると、同じ中町を舞台にしている、もう少し参加者が多くてもよかったのではないかと思う。今後の課題にしたい。

・中町地区まちづくり協議会の活動状況について

事) 昨年3月に計画書の策定は進んだが、反対住民の方によってストップした状態。昨年度までは、毎月の定例会を実施していたが、今年度は偶数月の第3火曜日に変更となった。引き続き、まちづくりアドバイザーの宇野氏または保氏に同行をお願いし、定例会に参加してもらっている。

本年度の活動としては、石畳の清掃、花の植え替え、駐車場の黒塀フェンスの塗替えといった作業は実施したが、毎年「灯りのプロジェクト」については、台風の影響で、中止となった。また、協議会主催で、芸者さんと歩こうというツアーを11月に予定していたが、これも申し込みが少なく中止となった。

しかしながら、中町三区区内ではいろいろな動きがあり、協議会が整備した「お休み処」が、持ち主の意向で駐車場にかわり、現在見番も建てかえ中である。また、まちづくり公社が、1,000㎡近くの駐車場を購入したこともあり、今後、中心市街地の活性化に向けて動きはじめるような場合は、そういった情報収集やかかわり方も重要になる。あわせて地域のまちづくりへの関心も高まる状況になれば、まちづくり計画書の認定という話にもつながるかもしれない。

委) 今の駐車場は、公社が買い上げたというような話だが、駐車場として運用するのか。

事) しばらくは駐車場として運用していくと聞いている。

委) まち歩きをしてみると、風俗店が目立ったので、そういうことはやはり、私権を制限することになるから、法的なところでコントロールすることは難しいのかと思う。

会) それを都市計画でやろうとすると、地区計画をかけるとか用途の制限を加えなければいけないので、それ以前に、まちづくり計画が地域で認定されないと、そちらに進んでいけないと思う。ここは商業的なエリアなので、一方的に規制することはできない。

委) 大地主さんが、ここ全体の底地を持っておられるそうで、それを借地された方がビルを建てているので、三重の権利ぐらいに重なっていて複雑だという話を、この間ご案内いただいた協議会の方にご説明いただいた。そういう意味で、まちづくり公社が買ってくれたのは、地元としては大変ありがたいというようなことをおっしゃっていた。

会) ああいう大きな土地をうまく活用することで、そういう店が、居心地が悪くなってくるというのは、やりようによってはできないことはないと思う。

委) 自然に客が減って、すごく健全な場所になっていけばとか。

委) それこそ市民活動になる。

会) それはあると思うが、花街は、わりと背中合わせのところもある。

委) 花街というのも一つの文化であり、産業でもあるので、やはり大事にしないといけない。

会) 料亭まで出ていったら、本末転倒になってしまう。

委) 誰かが、「子連れでは来られない」と言っていた。

委) 地元の方は、子供のときからここで育ったっておっしゃっていたが、大勢友達がいる、その

辺の路地を駆けずりまわって、かくれんぼや何かして遊んでいたとおっしゃっていた。

事) 路地で遊んでいると、芸者さんがお駄賃をくれて、駄菓子屋さんに行くのが、子供のころの思い出であり、ふるさとの原風景であって、それを少しでもこのまちに残したいという思いはある。いろいろなお店があったりはするが、うまく折り合いをつけながら進めていけるようにするには、どうしたらいいのかと感じている。

委) 東京でいうと、わりと上手にそういういろいろな機能が混じり合ったのは、神楽坂だと思う。いわゆる花街と、確かに夜の隠微な商売もある。それから、地元は猛反対したマンションができたが、そこに住んでいる方も、最近まちに溶け込んで、一緒にまちづくり活動をやって、粋なまちづくり倶楽部というNPOができています。また、理科大がわりと協力的で、神楽坂の沿道、あいたところをどんどん買って、校舎の建てかえ用、増築用地に使ったのだが、1階部分は飲食店を入れたので、大学側が貸し主になって、不動産ビジネスやって、教室はその上にあるとか、おもしろい建物が建っていて、まちのにぎわいは決して消さないで、かつ学生さんの授業も両立させるということで、住んでいる人、それから夜遊ぶ人、あそこはここより圧倒的に芸者さんも多いので、そういう遊び、それが上手に調和しているまちではないかと思う。

委) あそこは何かいろいろ混じり合っている感じで、しかも古い町並みが残って、若者に結構人気があるというのは、新聞記事にも出ていた。

委) 日本の都市計画というのは、土地利用の純化ということを言ってきたが、どうもそうではなくて、上手にいろいろな機能を混在させるということをようやくこの頃みんな認識し始めている。

会) 神楽坂の例もあったが、今後、公社が買った土地が動き始めたら、審議会でも少し議論する必要があると思う。

委) 公社も地主であることにかわりないので、協議会の会員になっていいのではないかな。協議会の会員は法人だからいけないということはないので、会員になって、地域の方と交わってくれるといいと思う。

事) 4月に協議会の定例会があるので、今いただいた意見はすぐ伝えたいと思う。

会) ぜひ、市から公社にダイレクトに言ってほしい。

事) そのように対応したいと思う。

・まちづくり準備会候補地区について

・摺指地区のまちづくりについて

目指すまちづくりは「一人暮らしの高齢者も安心して暮らせるまちづくり」をスローガンにして、空き地、空き家の活用、野菜の即売販売、地域のお助け事業に取り組んでいる。昔この地域の各家庭でつくられていたこんにゃくを摺指の名物候補になればということで、12月に、地域の方を対象に実施。地域のお助け事業も、昨年10月末現在で、草刈りなどの依頼が16件あった。

・加住・宮下町地区のまちづくりについて

加住・宮下地区は、市の北部に位置し、北には加住北丘陵、南は加住南丘陵が東西に伸びていて、その間を谷地川が流れている。川沿いに滝山街道や新滝山街道が通っている。

このあたりのエリアは、都有地が点在している。将来的に都有地の有効活用を早期に実現したいということで、地元で協議会を設立したが、最終的に区画整理事業の区画設立準備会が目的であるため、都有地を売却してほしいという要望の前に、まず地元でまちづくり計画を考えるために、条例に則って準備会登録に向けて準備を進めている。

・小津のまちづくりについて

前) 昨年6月のまちづくり審議会で、少しお話しさせてもらったが、今回はそれ以降、こんな取り組みをしたという実績と、これからこんなこともやっていきたいというような話をしたいと思う。

まず、この古民家をなぜ「おもむろ」というネーミングにしたのかというと、もともと、この家の持ち主のお名前に「むろ」がついていたので、「むろ」というのは何とか残して、名前をつけたいと考えた。まずここに来た人におもしろいと感じてもらうこと。それから、我々の気持ちとして、来た人にはおもてなしや、おもいやりを持って接しましょう。また、こういう古民家なので、皆さんに来てもらって、何となくおもむきがあるなというのは感じてもらいたいと思っている。今後は、子供も呼びたいと考えているので、小さいころ、こういうところへ行ったよというような思い出づくりができればいいかなと思い、欲張って「おもむろ」という名前にしている。

ネーミングにはこだわって、少し遊び心を持ちながらやろうと考えている。今日来たときに大きなしだれ桜があったかと思うが、このしだれ桜にも名前をつけようと、小津倶楽部の「倶楽部」が漢字なので、かた苦しい漢字がいいかなということで、「和武桜」という名前にした。桜というと、女性っぽいということで、それを漢字であらわすと、いろいろあると思うが、和やかな和がふさわしく、また大きな木であるので、これは男らしく、武士の武かなということで、名前を「和武桜」とつけた。実はこの桜の持ち主である地主さんのお名前をいただいたというのが本音だが、名前の由来は最初に言った通りである。

いろいろなところで話をすると、この写真は必ず使っていて、ちょっと上を向いた感じで、みんなにこやかに写っていると思う。これが小津倶楽部の姿勢で、下を向かないで、上を向いて、笑顔でやろう、そのようなモットーでやっている。

また、左上に緑のロゴマークがあるが、これが小津倶楽部のロゴマークで、アルファベットでOTSUをあらわしている。このロゴマークと、写真に写っている人の顔が何となく似ているような感じで、このにこやかな顔みたいなのが、小津倶楽部の基本だということで、この写真はいつも使っている。

何かこういうことをやっている、一つのコンセプトというか、キャッチフレーズみたいなもの

のが、すごく大事だということを感じていて、この小津町を歩いてもらった人のいろいろな意見を聞きながら集約したものが、資料に載せてある。過疎とか耕作放棄と言われても、実際には今住んでいる自然環境は、今の状態が一番気持ち良く、住環境というのは、この辺は住まいが点在しているのだが、ここへ人がいっぱい来て、町中のように、ごみごみしたのがいいかという、決してそれは好まない。それで「自然環境、住環境はそのまま残し、地域のいろいろな魅力や資源を活かしたまちづくりをしよう」というコンセプトで取り組んでいる。

この古民家は10年ほど全く住んでいなかったもので、庭はこんな感じで荒れ放題だった。作業を1週間、2週間と続けていって、大きなものは自分たちで持っている重機で作業した。

こういうことをやっていて、地主さんとか家主さんの思いを聞いてみると、何度か貸してくださいという話をしても、こういう土地柄、どちらかというと保守的なところがあって、なかなか「いいから使って」というわけにはいかず、貸したのはいいけれど、どんな人に使われるかわからない、あるいは、変な人に貸したが最後、返してくれないというのがあるということで、なかなか借りるのが難しい。そういうことも含めて、貸す人、それから借りる人、その間に何か仲立ちできるような組織がないかということで、NPOとして動き始めました。

もう一つ、小津倶楽部と小津町会の役員は実は一緒で、こういう小さい地域で、そういうことをやる人って、たくさんいるわけではないので、連携して地域の課題を解決しようというような取り組みでやっている。

一番大事なのは、まず仲間がいないと何もできないということ。また、資金がなかなかないので、いろいろな作業を業者に頼むのは、すごくハードルが高い。そういうところを考えると、私たちのグループの中にはいろいろなスキルを持っている人がいるので、農地再生したり、山林再生したり、家屋の改修などほとんど自前でやっている。

時間的に前後するが、法人が設立した次の土曜日に、発足式とお花見を兼ねて行った。このときに「和武桜」の名前を発表して、せっかくだから名前だけじゃなくて、ご夫妻がずっと大事にしていた木ですごく縁があるから、「縁結びの木」にしまおうということで、いろいろPRするときにはそんなことも含めて話をしている。

これは、NPOの八王子会議で取り組んだ様子である。

委) これが、かなり大々的に小津町を紹介した格好になったと思う。

前) そのとおりで、これをやった以降、小津町が八王子の西部のほうあることが浸透したと思う。

そのときの最後に、NPO八王子会議の宣言をまとめようじゃないかということで、「集って育くむ八王子愛」ということに決まり、それは、「小津宣言」にしようと考えられました。

はちおうじ緑化フェアのときに、ここもスポット会場として応募し、ピザづくりと薪割りの体験を、都合5日間（土曜日曜だけだが）開催して、延べ200人ほどの参加者があった。

11月には、先ほど歩いて入ってくる左側のほうに、60本のオリーブが植えてあるのが見えた

思うが、小学校1年生の力をかりて植樹をした。なぜ1年生かというと、ちょうど1年生が卒業するころ、実がなるのではないかとということで、全てに、丸い木の名札をつけてある。

この方は地主さんで、すごくうれしそうな顔をしていると思うが、若いころに農業実習でアメリカへ渡り、たまたまオリーブの収穫をしたという経験があるということで、もともとは広い栗林だったところの利用をお願いしたところ、快く提供してもらえ、オリーブの植樹ができたという経緯である。

これは、小津倶楽部単独でやったのではないが、「FARMART」という青空市みたいなもので、この場所がいいから貸してくれないかということで、おもむろ周辺を使って催した。1日で800人、あるいは1,000人という人もいて、小津の全体の人数が240名ぐらいなので、その4倍ぐらいの大勢の人がここへ集まった。そのときは、ピザ焼きの体験と、芋掘りの体験を行った。

もう一つ、ピザ窯がここから見えると思うが、ある会員の「野菜もつくっているし、ピザでも食べたいね」というその一言からはじまって、インターネットを駆使してつくってしまった。それ以降、小津倶楽部のイベントにはピザはつきもので、多分もう1,000枚とか1,500枚、焼いていると思う。

あとは、人のつながりというのはすごく大事だと思っていて、倶楽部に入っている人が、仕事上外国のかたとのつき合いがあったりすると、フランスの大学生で建築を勉強していた学生が、そのついでこちらに来たことがあり、たまたま町内のお祭りにも「参加する？」と聞いたら、喜んで参加してくれました。

いろいろな団体と交流を持ちつつ活動を進めていくと、活動を1つするごとに仲間が増え、かなり大きな広がりを見せている。

実はこれから取り組もうとしている活動で、先ほどこちらに来る際、この辺の山は荒れているというイメージを持たれたかと思うが、実際に木を建築とかに使うのは大変だが、緑化フェアのときのように、プランター（木をくり抜いただけのものだが）にして花を植えたり、薪に使うとかそんなことを考えている。

今までいろいろなことをやってきて、感じたことをまとめてみた。

まず仲間づくりが大事だということ。

自分たちが取り組むのだという意思を明確にしないとだめということ。行政は何もやってくれないとか、こういうことで困っているのだけれど、何とかしてくれという丸投げはだめで、自分たちでこうやろうとしているのだ、という姿勢を見せないとだめだということ。

それから、コンセプトというのは明確にしておいて、活動は決して無理してはいけない。

自分たちの良さ、強みを知ることが大事。実は私たちが最初に活動を始めたころは、自分たちの地域の良さというのは、あまりわからない部分がありました。ところが、皆さんのように外部から来て、いろいろ歩いてみたりして、良さというものを見てもらおうと、自分たちにとって、とてもマイナスのイメージだったものが、こんなすばらしい資源なのだというものが、随分ありま

した。そういうのが、活動を通じてだんだんとわかってきて、今までわからなかったことを知ることが大事だと気づきました。

町会と違って小津倶楽部というNPO法人だけれども、住んでいる人はみんな一緒なので、みんな共通の認識で、同じような気持ちでやらないと難しい。

無理をせず、やれることからやってみよう。こういうことをやりたいというアイデアが出たら、それは殺さない。やりたければ、やってみればいい。だめだったら、しょうがないねという、すごく緩いやり方をしている。

あまり緻密にせず、普通なら、何月何日までにこれを終わらせようとするのだが、それをやって行き詰まるといけないので、やらないようにしている。

また、日ごろの活動には遊び心を持ってやりましょう。多分、いつも活動をしている人の顔を見てもらうと、にこにこしながらやっていて、それが大事だというふうに考えている。

それから、何か新しいことにチャレンジしたい、という気持ちを持つことは大事だと思っている。オリーブは、木が枯れそうで心配しているが、もしうまくいったら、八王子のオリーブだと言おうかと思っているが、まだ胸を張って言える段階でない。

最後に、これが一番大事なことで、人との出会いは大切にすること。そのネットワークは、大切にしていかに利用する。そんなふうに感じている。

これから取り組もうとしていることは、市の市民企画事業というので募集があったものですから、そこにも応募してやってみたいと思っている。

また、これも取り組もうとしている事業だが、自分たちは遊びだけではなくて、高齢者が多いので、高齢者の福祉というようなことを考えている。住民主体で訪問型のサービスができるというような仕組みをつくるというのがあるものだから。例えば買い物のお手伝いとか病院通いとか、庭の手入れができないからといったら、それはお手伝いしましょうとか、そんなのも含めてやっていきたいと思っている。

あともう一つが、NPO法人だけだと、農地の賃借というのができないので、それをもう少し広げるために、認可法人という農業の法人格を取ったので、今度は地主さんから土地を借りて、それを貸したり、あるいは、そこで収穫できたものを売ることができるようになり、活動の幅というのはさらに広がりそうだなというふうな感じで、いろいろ楽しみながら考えて活動をしているという状況である。

委) 最後のまとめで、どれも非常に重要なことだと思うが、特に⑤の「地域住民の意思を尊重し、みんなで共通認識を持つ」、これは非常に重要であり、先ほどの中町の取り組みの中にも大きくかわってくるのかなと思いつつ、聞かせていただいた。

特にこの地域で、みんなで共通の認識を持つとか、みんなの意思を尊重して、前に進めていくというようなことに関して、何か特に工夫されていることや、ちょっと意見が一致しないような

ことがあったけれども、こういうことをしたので、みんなで共通認識を持てるようになったことなど、何か教えていただけないか。

前) 難しいところで、こうやったから画期的に変わったというのではない。この町会は79世帯という世帯数だが、その中で小津倶楽部の会員というのが、まだ実際には4割ぐらいで、半分にはまだいないという状況である。ただ、町会の総会とかで、反対意見というのは今のところ出ていない。

今のままでは、なぜいけないのかという人もいるので、例えば、活性化しようということで、ハイキングをやりたい人が来るというと、ハイカーが来たただけだって、大勢で来て、騒がしいと、どうしてもマイナスにとるので、そうではないのだと話をしながら、苦労はしている。

ただし、声かけは大事だと思うので、小津倶楽部のイベントをやるときには、会員だけでなく、町会員全部に回覧とかで知らせて、誰でも参加してくださいということは、くどいぐらいに言っている。

あとは、そんな話をしていると、あんまり関心を示さなかった人でも、犬の散歩とか自分の散歩がてら、「この間ちょっと見たけど、大分変わっているね」などという人も増えてきているし、「たまには手伝いに行ってみようか」という声も出始めているので、何も知らなかった人が、それこそ何かやっているよということがわかることによって、かかわりを持とうかなというの、徐々に増えてきていることは事実である。

委) 訪問型サービスを中でつくられる計画があるというのは、非常に素晴らしいことだと思う。私も福祉の関係にかかわっているが、わずかな金額ではあるが、担い手教育というのがあって、5人以上で、あるグループをつくって、あるお手伝いとか何かをすることによって、補助がでるといがあるので、活用されるといいと思う。

前) 実は活動資金が少し足りないという部分があるので、何か補助金というか、こういうことをすることによって補助が出る、委託の事業があるなんていうのには、ものすごく敏感になる。

例えば、高齢のひとり暮らしで、庭の手入れができないので、かわりに手入れをする、極端なことをいうと、電球1つの交換でもいいよというような取り組みに対して、補助が出るということならば、それは活動資金に回したいと考えている。

委) それから、協働推進でやっている補助金も検討したらどうかと思う。あれは、私のグループでももらったことがあるが、資金を持っていれば、それに見合ったかたちで補助がでる。活用の度合いによっては有効に使えると思うので、ぜひ利用されるといいと思う。

委) 私は3～4回ほど、ボンゼン山から夕やけ小やけまで歩いたが、その過程で気がついた点があり、今の登り方では、ハイキングは向かないので、ルートを考え直してもいいと思う。

子供が登るには、あのルートでは厳しいものがあるが、我々「山の会」から見ると、このきついコースは、結構魅力がある。そうすると、そういうものに対するルートづくりの問題だとか、あるいはここへのアクセスの問題、せめて1本のバスがあるといいと思う。山の魅力をもう少し

まく使う方法があると、あまり人の問題と絡みがなくても、最近のハイカーは意外と、ごみを落とさないようになってきているので、ハイカーをうまく誘致することも1つだと考える。

それと、もう1つは、バイオマストイレ、どこの山へ行っても、トイレがとても不便なので、それをうまくやっているのはバイオマスで、今のバイオマストイレはものすごく進化していて、においがいい、入っても結構清潔である。その材料をこちらでとれないかなと思っていて、うまく活用したら、ここの資金源になるのではないかなと思う。それで、バイオマスそのものを売り込むという、そういうことも山の資源としては使えると思うので、そういうことも一度考えてみてもらいたいと思う。

せめてルートづくりだけはお願いしたいと思っていて、この前、ルートを間違え遭難しそうになった。一応、地図には載っているけれど、かなり急降下でおりなくてはならないところがあり、ちょっと素人じゃ難しいと感じた。ああいうところのルートづくりをしっかりとすれば、もう少し楽に行けるかなという気もする。最初、階段をつくったり、トラロープをつけたりというのは大変なので、せめてピンクの目印のあれだけは、もう少し小まめにつけておいてもらおうと、随分、ルート歩きが楽になるので、そこから始めてみたらどうかという思いがある。

前) ハイキングルートづくりをやろうと、3人ほどで取り組んでいるのだが、人数がまだ今のところ少ないので、そちらへばかり3人行くと、他でやる作業が間に合わなくなってしまう。ボンゼン山から向こうへ抜けるのを、3人ほどで取り組んでいたのが中断している状況なので、その目印もつけられていないというような状況である。

始めたころというのは、この場所って、邪魔な木を何本か切ると、すごく見晴らしが良くなるよとか、いろいろなことを気にしながらやっていた。また、子供さん連れでもいいようなハイキングルートとして、小津の北側の尾根を歩くと意外と簡単だとか、奥のほうへ行くと、川の水源近くに滝があり、10メートルぐらいだが、雄滝と雌滝という対になっており、ここもハイキングルートにいいかなと思っている。今は全くルートがないので、沢を歩いていくしかないというような状況である。その話をすると、ハイキングをやっているグループで、だったら手伝うと言ってくれる人もいる。

委) 私のクラブも今、50名いるのと、そういうことなら、ボランティアでやるよというやつが出てくるので、八王子には山のクラブがたくさんあるので、そういったところへ声をかければ、別段費用、出すとしたら交通費ぐらいで、みんな参加すると思うので、そういう人たちにある程度、こういうところを探してくれとか、こういう形でやってくれというのを依頼すれば、意外と、スケジュールを組んで参加してくれると思う。そういうことを外部の人間としてはやれると思うので、そういうところには積極的に、我々が参加してもいいかなという気がする。

委) 外部からのアクセスということと少し関連すると思うが、11月に行ったFARMARTで、かなりの多くの方が外部からきたときの、アクセスとか、あるいは駐車場は、どういうふうにされたのか。

前) 公共交通はなく、町会の運行バスというのが、月曜日から金曜日までは毎日4便、運行しているが、日曜日は、バスの運行がないので、駐車場に困りました。神社の近くの民間会社の駐車場も含めて借りて、これなら大丈夫かなと思ったのだが、それでも間に合わなくなってしまった。神社のところから歩いてくださいといっても、結構距離があり、時期的に、周りの景色を見ながら歩いてくる分には、ちょうどいい距離かなとも思うが、FARMARTも、それなりの目的で来るので、最後のほうは普通の乗用車で、ピストンで送り迎えして、間に合わせました。

委) 皆さんが自家用車を出してということですか。

前) そうです。

委) ちょっと教えていただきたいのだが、2.5キロの市道18に79世帯240人余が暮らしていて、傾向として、この240人は増える傾向にあるのですか、減る方向にあるのですか。

前) やはり、減るほうに向かっている。高齢より若年層の減りが激しい。例えば小学生を例にとると、現在では3人しかいない。私の子供たちのころは、1学年で6～7人はいたので、そのころから比べると、ものすごい減り方である。

委) ここに来る途中、結構新しい住宅も見たのだが、新規入居者もいるのか。

前) いいえ、この地区は市街化調整区域なので、町会外から来て、住宅を建てて住むというのはできない。でも、まだこの地域としては、空き家がすごく増えるということもない状況である。陣馬山の麓のほうへ行くと、もっと空き家が増えている。ただ、その辺でも空き家が多くても、活用するから貸してくださいといっても、なかなか借りられないというのが現状である。

会) ほか、よろしいか。

事) このあと現地をご案内していただこうと思っているので、皆さんからのご意見がほかになければ、これで審議会は一度、閉会したい。

会) 前原さん、ありがとうございました。それでは、これで本日の審議会は閉会にします。

〔午後3時30分閉会〕